

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	ひょうご農林機構	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設環境を維持し、来園者の 快適な施設利用を確保	【実績】 管理研修棟、学校管理棟等 の屋内清掃業務及び廃棄物 処理業務を専門事業者へ委 託して実施したほか、施設関 係者による日常的な清掃を 実施した。 【評価】 来園者から「快適」「美しい」 「きれい」と評される優れた園 内環境を確保することができ た。	◎	◎
	設備保守管理	日常点検のほか、法令等に 基づく定期点検等を実施	【実績】 電気工作物、合併処理浄化 槽、電話交換機、消防設備、 空調設備等の保守管理業務 について、資格者を有する専 門事業者へ委託して実施し た。 【評価】 職員及び委託業者による日 常点検を実施し、安全管理の 徹底に努めた。	◎	○
	植栽管理	定期的な補植・除草等による 快適な園内環境を維持	【実績】 花壇、芝生、緩衝帯等の日常 管理、定期的な補植、植替 え、芝刈り、草刈り等を実施 したほか、美観の維持に努め た。さらに、プランターによる 季節の花や果物等の植栽を 実施し、来園者の関心を集め た。 【評価】 整備の行き届いた芝生、植 栽や間伐材やポットを活用し た花飾りなど、美しい環境づ くりを推進することができた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	警備	園内秩序の維持、盗難・火災等の未然防止による安全確保と財産保全を図る。	<p>【実績】</p> <p>機械警備や委託業者による巡回警備を定期的を実施した。特にイベント開催時には、周辺道路の混雑を避け来園者等の事故防止を図るため、交通整理や巡回等の警備強化を図った。</p> <p>【評価】</p> <p>機械警備並びに警備会社や機構職員等による巡回警備、交通整理及び来園者誘導等を実施し、利用者の安全確保に努めた。</p>	◎	◎
	小規模修繕	来園者等の安全確保及び円滑な施設運営に必要と認められる場合に適宜実施	<p>【実績】</p> <p>レストランテラス修繕工事を実施したほか、きのこ館ユニットクーラー、加湿器修繕等を実施し、来園者へのサービスの向上を図った。</p> <p>【評価】</p> <p>適正な予算配分により要修繕箇所への対応を積極的に行い、来園者の安全確保をはじめ、快適性・利便性向上に努めた。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	法令で定められた点検・検査を確実に実施。	<p>【実績】</p> <p>消防設備点検を年2回実施した。</p> <p>【評価】</p> <p>計画どおり実施した。</p>	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	<p>開園日：休園日（12/29～1/3、毎週水曜日）を除く日、開園時間：午前9時～午後5時</p>	<p>【実績】</p> <p>臨時休園日 4月25日～5月11日 （新型コロナウイルス感染拡大防止のため）</p> <p>【評価】</p> <p>計画どおりに開館し、県民ニーズに沿った各種体験事業の充実に努めた。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	公共性・公平性の確保	設置管理条例の趣旨や基本協定等を遵守し、公平かつ平等な施設運営を実施	<p>【実績】 トイレ、スロープ等の施設のバリアフリー化が整っており、車いすの貸し出しも行っている。車いすの手入れ等を実施し、公平かつ平等を基本とし、誰もが快適に利用できる施設運営を実施した。</p> <p>【評価】 設置管理条例等に基づき、全ての利用者に公平な対応を行うよう徹底を図り、来園者にとって公平で快適に利用できる施設運営に努めた。最近では身体に障害のある方や車いす使用の高齢者の来園も増えつつある。アンケート結果や多数の礼状では、「職員が丁寧に対応してくれた。」等の肯定的な意見がほとんどを占めており、多くの来園者が満足し、快適に利用できるような施設運営となっている。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	年間を通じて食と「農」に関する各種体験や実践、研修コース等を実施	<p>【実績】 事業参加者と連携した食体験、農産物直売、農産物加工体験、野菜・果樹栽培体験、里山再生塾等を実施した。また、親子での農業体験、生きがい農業コース、就農コース等において実践的な研修等を継続して実施した。さらに、夏の楽農生活フェアや、秋の感謝月間を開催する等イベント開催に努めた。</p> <p>【評価】 年間を通じて多彩な体験プログラムや研修コースを継続的に実施している。また、楽農生活フェアや、旬の農産物の収穫加工体験、リニューアルで整備した芝生広場を活用し、楽農生活やさしいヨガ体験など新たなメニューを実施、来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	楽農生活の拠点施設として 来園者の多様なニーズに応じた 質の高いサービスを提供	<p>【実績】 団体客からのアンケートに加え、「生きがい農業コース」「親子農業体験教室」等の参加者を対象にアンケートを実施したほか、イベント時に来園者アンケートを実施し、施設運営に来園者の意見を反映させるツールとした。</p> <p>【評価】 アンケートからは「担当の方が要望にきめ細かく対応してくれた」、「施設が充実していて開放感がとても良い」等の評価を得ているほか、「生きがい農業コース」等でも、「野菜を理解して育てることの重要さが解った」「有機農業への興味が深まった」との回答を得るなど、楽農生活の推進上、効果的な事業展開と魅力ある施設運営に取り組んでおり、さらなる満足度の向上を目指したサービスの提供や対応に努めている。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	200,000人 [前年度:200,000人]	<p>【実績】 来園者数:63,777名 (R2年度:48,156名)</p> <p>【評価】 来園者数は目標者数に対して大幅に未達となった。原因はコロナ感染症の発生に伴う来場者の減少と考える。対応として事業参加者との連携を密にし、センターでのコロナ感染症対策を実施して、安心・安全に来場していただけるように努めた。</p>	×	×
	施設稼働率	100% [前年度:100%]	<p>【実績】100%</p> <p>【評価】 今後も100%の達成を維持すべく適切な運営を行っていく。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:25,008 千円 BDF 製造施設・維持管理: 364 千円 施設使用料:137 千円	【実績】 指定管理料:25,008 千円 指定管理料(修繕委託分): 10,487 千円 施設使用料:113 千円 BDF 製造施設・維持管理につ いては、R4 年度撤去予定と なり実績はなし。 【評価】限られた期間内であ ったが、入札等の手続きを円 滑に実施し、効率的、効果的 な予算執行を行った。	◎	◎
	経費節減に向けた取組	民間事業者の専門技術、経 営ノウハウを活用し効率的な運 営を実施	【実績】 事業参加者や地元グループ 等との連携と協働による日常 的な経費節減を実施。特に夏 期においてはデマンド管理に より、電力の節約を事業参加 者とともに実施し、経費節減 を図った。 【評価】 各種体験事業や管理業務を 事業参加者や地元グループ 等との協働で実施しており、 公と民の連携による運営の 効率化に努めた。特にデマン ド管理、きのご館やレストラ ンへのサンシェード設置や空調 稼働率の高いきのご館への 屋根散水設備等の設置によ り夏期電力の節約に努めた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望、苦情に対して誠意をもって対応する。	<p>【実績】</p> <p>センター長、次長において苦情要望等を集約し、職員及び事業参加者に対して適切な指導を実施した。</p> <p>また、管理研修棟エントランスにご意見箱を設置し来園者の要望等の収集に努めた。</p> <p>ご意見については、「CO2 の削減の協力して！！」といただいた。</p> <p>回答としては、「野菜などの作物が農地で適切に栽培されることで、食物の行う光合成により、CO2 の削減の吸収と食料の生産が行われます。食料生産を行う農業にはCO2 を吸収するという多面的機能を持っています。</p> <p>当センターでは農業の担い手を育成するとともに農業体験や食体験を通じた農学ファンの増加により、こうした農業の多面的機能が発揮できるよう、努力してまいります。</p> <p>また、こまめな消灯・事務機器の省エネタイプの導入などCO2 の排出抑制にも取り組んでいます」とした。</p> <p>【評価】</p> <p>施設利用者からの要望・苦情を集約し、迅速かつ誠意ある対応の徹底に努めた。</p> <p>また、ご意見箱については、その回答をエントランスに掲示して、他の来園者への情報発信にも活用した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	自衛消防組織編成に加え、公社本社、県所管課、警察署、消防署、救急医療センター、民間参画事業等を包括した緊急連絡体制を構築	<p>【実績】</p> <p>計画どおり実施</p> <p>【評価】</p> <p>自衛消防組織編成や緊急連絡体制を構築し危機管理体制の確保に努めた。令和3年度は、大きな事故はなかったが、今後も危機管理体制を維持して緊急時に備える。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	県・関係機関との連携	事業参加者、県庁所管課で構成する協議会等を通じた調整・連携、楽農生活インストラクター・楽農サポーターの参画による事業推進を実施	【実績】 計画どおり実施 【評価】 県と事業者を含めた協議会で定期的な連携体制が機能しているほか、緊急時には県と迅速な連絡を行っており、緊密な連携ができています。	◎	◎
	業務の再委託の状況	-	-	-	-

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

〔施設維持管理業務〕

イベント開催時における駐車場警備体制の徹底、日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めるとともに、来園者が快適に過ごせる園内環境の確保に取り組んでおり、評価できると考える。

〔運營業務〕

生きがい農業コースや親子農業体験教室など各種講座や体験を実施している。令和3年度は楽農カフェ「Five Country Cafe」がオープンし新たな来園者の増加が今後も期待できる。また、就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースでは、県が推進する就農者育成にも大きく貢献するなど、高い運営実績が評価できると考える。

〔利用状況〕

年間の入園者数は目標を下回ったが、来園者数は約6万4千人となり、前年度から約1万5千人上回った。楽農生活フェアや、旬の農産物の収穫、加工体験、リニューアルで整備した芝生広場を活用し、楽農生活やさしいヨガ体験など新たなメニュー等ファンづくりに取り組んでいる。また、定期的に行われる運営協議会において、来園者のニーズを汲み取り改善策の検討を図るなど適切に対応し、来園者の増加を図る工夫をしている。

〔収支状況・運営体制〕

経費削減に努め、効率的な運営を行うとともに、事業参加者や地元農業者グループ等が参画・連携し、効果的な事業展開が行えており、評価できると考える。

来園者の視点にたって、さまざまな取り組みを進めており、今後もより多くの県民がそれぞれのライフスタイルに合った多様な「楽農生活」の実践ができる拠点施設として、施設運営、事業展開等の向上に取り組む。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部総合農政課

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益社団法人 ひょうご農林機構	選定方法	非公募(随意契約)

1 指定管理者の業務実績に関する評価

コロナ禍で休園日の制限等があり、年間を通じて利用者の減少が見られたが、感染症対策を徹底し、大きな事故やトラブルがなく、基本協定及び年度別協定に基づき、適正な管理が行われているものと判断できる。

事務的な手続きについては、引き続き適切な管理を徹底していただくとともに、今後も良好な管理業務を継続し、「楽農生活」の体験や実践ができる拠点施設として県民に活用されるよう努めていただきたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

〔施設維持管理業務〕

日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努め、利用者アンケートにおいても満足度が高く、施設利用者へのサービスの質は引き続き維持されており、今後も維持されたい。

〔運営業務〕

開設以来、来園者は243万人を超え、令和3年度には新たなレストランがオープンしたことにより、さらなる来園者の増加が期待できる。また、従来の広報に加えてSNSの積極的な利用等、若い世代にも関心を持ってもらうための広報を強化している。

さらに、就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースや親子農業体験、食と「農」の学びにつながる各種講座・体験を実施するなど、「楽農生活」の実現に貢献する事業を積極的に企画運営し、「楽農生活」の醸成に大きく寄与されている。

〔利用状況〕

新型コロナウイルスの影響により一時的に臨時休園を余儀なくされたが、利用者数はコロナ禍以前までは回復していないものの、前年度よりも増加しており、興味深いイベントの実施等、感染対策に取り組んだ上で積極的なセンターの運営を行っている結果と思慮される。

今後も感染対策を徹底し、野菜栽培・収穫体験・里山体験等ファンづくりに取り組み、定期の運営協議会において改善策の検討を図るなど、適切に対応いただきたい。

〔収支状況・運営体制〕

指定管理者を中心に、日頃から民間事業者や地元農業者グループ等との協議が行われており、また定期の運営協議会を行うなど連携体制が確立されており、評価できる。

来園者の視点にたつて、今後もアンケートを実施するなど利用者の要望を把握し、利用件数の増加を図るとともに、利用者満足度の向上に努めていただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シート of 施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	・清掃の実施により園内を入園者が常に快適に利用できる状態を維持	毎日、園内清掃を実施した。 (園路、広場、便所等 1回/日以上)	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	園内道路等は、日常、各現場で担当職員が点検を実施。建物、設備は定期点検を実施した。	◎	◎
	植栽管理	・四季の特徴を明確にしつつ、デザインを重視した花のある風景を演出する年間植栽管理計画を作成し実施	植栽管理計画に基づく花壇の植栽や樹木剪定・伐採等による景観改良を実施した。花と緑のまちづくりセンターの協力を得て、枯松防止剤の樹幹注入による松くい虫防除を実施した。	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間の機械警備 ・入園料の銀行への預金を複数の職員で実施	園内の安全確保のため、昼間の園内巡視による状況確認、夜間の機械警備等を実施した。 また、事故等の発生に備え、対応マニュアルの再確認を職員に周知した。	◎	◎
	小規模修繕	・軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施	軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等は専門業者等に委託して実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日:毎週水曜日及び12月28日～翌年1月1日(ただし、3月上旬～5月上旬、10月下旬～11月下旬、1月2日～1月4日は無休)	左記の通り (新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月25日～5月11日まで臨時休園。また夏期の夜間一部開園は中止)	◎	◎
	公共性・公平性の確保	・地域自治体や地域団体との連携を図り、施設の利用促進を実施	地域団体と連携し、感染対策を行なった上で、イベント(ロハスパーク)を開催した。 (例年実施している加西市じば産物産展、地元高校のマラソン大会の園内開催は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	各種事業・プログラムの実施状況	・入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種誘客イベントを企画実施	新型コロナウイルス感染拡大対策のため広い会場への変更や消毒・換気などの対策を行なった上で76回のイベント等を実施した。また、感染対策が難しいなどの理由で8回のイベントは中止した。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を年1回実施	令和3年11月3日に南入園口で来園者アンケートを実施した(回答数288人)。	◎	◎
利用状況	利用者数	目標入園者数:250,000人 [前年度:151,000人]	入園者数190,970人 (達成率76%)	△	△
	施設稼働率	体験教室の開催:10回 [前年度:100%]	体験教室の開催:12回	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:221,741千円 利用料金収入:49,384千円 収入計271,125千円 支出計268,878千円	指定管理料:227,078千円 利用料金収入:42,618千円 収入計269,696千円 支出計269,692千円	○	○
	経費節減に向けた取組	管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理を行なう。	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費、購入経費を削減、また、園内の清掃を全職員で実施した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡する。	・【苦情】コロナ禍におけるイベント開催の不安。 【対応】兵庫県対処方針に基づき感染症対策を徹底したうえでの実施であることを説明し理解を得た。 ・【要望】人気講座の予約がとれない。(固定客が年間予約をしている。) 【対応】申込始期を設定し、新規受講者を対象とする。	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	マニュアルの内容を周知し、園内職員ネットワークへの掲載、職員研修の実施により危機管理体制を確保した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県等と密に連絡を取りながら管理運営を実施	温室等の修繕を開園しながら行なうことができた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等を専門業者等に委託して実施した。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

新型コロナウイルス感染防止対策のための臨時休園等により入園者数は目標を下回ったが、団体客がほとんどない中でも前年の入園者数を上回る月が多かった。

また、利用者満足度調査の施設全体において8割以上の入園者が肯定的な意見を回答しており、概ね適正な管理を行なうことができた。

今後は新型コロナウイルス感染症対策を万全にしながら、来場者の満足度が上がるように植栽にも新たな取り組みを試み、入園者数の向上、効率的な運営に努めていく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部農産園芸課

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

新型コロナウイルスの影響で入園者数は目標を下回ったが、各種マスコミ(TV・新聞等)取材や旅行紙等の取材に積極的に対応したり、HP、インスタグラム、ブログ等の SNS を上手く活用し年間入園者数は昨年度を上回る結果となった。

また、体験教室(春のアレンジメント教室や食虫植物教室、夏の花木を使った寄せ植え教室、クリスマスアレンジメント教室、お正月の寄せ植え教室等)を開催するなどし、入園者確保、施設の魅力向上に取り組んだ。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全にしながら、新規来場者確保のため、新たなイベントの実施や、新たな植栽を組み入れることによりリピーターを増やすよう工夫を凝らす。

○R3 年度実施のアンケート結果では、50 代以上の入場者数が 77%、30 代以下が 13%であった。30 代以下の若い世代をターゲットに、インスタグラム等の SNS で情報発信を積極的に行い、若い世代への認知度向上に努める。

3 施設所管課による総合評価

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年3月～ 令和4年3月(2年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	入園者が常に快適に利用できる状態を維持する。	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	◎	◎
	植栽管理	・花畑の生育状況を把握し、灌水、抜根除草、薬剤散布等を計画的に実施 ・レストランからの眺望を意識した植栽を計画 ・兵庫県内で生産された花苗を使用 ・近隣牧場と連携し低コストで大面積への堆肥散布	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間における便益施設棟の機械警備 ・駐車場、園内の監視カメラによる昼夜監視 ・入園ゲート解錠、駐車場入口車止め設置	◎	◎
	小規模修繕	・簡単な補修等については、職員による補修作業や近隣業者による補修	◎	◎
	法廷点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日は12月29日から翌年1月3日まで ・開園時間は9時から17時まで	◎	◎
	公共性・公平性の確保	地元のイベント等に積極的に参加し、観光関連団体との連携に努める	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	各種事業・プログラムの実施状況	入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種誘客イベントを企画実施	公募したデザインを牧草地に描くアースワーク作品を展示した(募集は7月に実施) 応募総数 275点 (開催回数1回)	○	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を年2回実施	①7月22日～8月22日の間に14日間実施した(回答数138人) ②10月19～28日の間に4日間で実施した(回答数409人)	◎	◎
利用状況	利用者数	目標入園者数:850,000人 [前年度:448,165人]	入園者数 473,820人 (達成率56%)	×	×
	施設稼働率	駐車場 [前年度:235%]	駐車場稼働率237.1% ※稼働率=延べ駐車台数/延べ駐車場枠数	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	【計画】 指定管理料:100,000千円 利用料金収入:38,680千円 その他収入:10,679千円 収入計:149,359千円 支出計:149,359千円	【実績】 指定管理料:118,901千円 利用料金収入:29,217千円 その他収入:10,104千円 収入計:158,222千円 支出計:158,214千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費・購入経費を削減した	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡	【対応体制】利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡する 【苦情内容】直売所で購入した商品の賞味期限が2日しかなかったとの苦情に対し、謝罪と代替商品発送した	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	事故等の発生に備え、対応マニュアルを職員に周知した	◎	◎
	県・関係機関との連携	抜本的に施設の修繕等が必要な場合は、県に報告し指示に従う	コロナウイルス対策並びに災害復旧工事を県と連携しながら実施した	◎	◎
	業務の再委託状況	施設維持管理業務(電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく法点検等)を専門業者等に委託	施設維持管理業務に関して、電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく法点検等は、専門業者等に委託した。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

今年度は新型コロナウイルス対策のため、長期間の休園を余儀なくされた。そのような中、メディア取材(累計289件)などに積極的に協力し、知名度の向上が図られ、例年以上の入込客数を記録する月もあった。

今後は、新型コロナウイルス対策を万全にしながら、来場者の満足度が上がるように植栽にも新たな取り組みを試みていく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部 農産園芸課

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年3月～ 令和4年3月(2年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

今年度も新型コロナウイルスの影響で入園者数は目標を下回ったが、各種マスコミ(TV・新聞等)取材(累計289件)や旅行紙等の取材に積極的に対応したり、HP やフェイスブック、インスタグラム等の SNS を上手く活用し(投稿202回、フォロワー数1983人)年間入園者数は昨年度を上回る結果となった。

また、花摘み取り体験(4回実施:参加人数409人)やアースワークのコンテストを開催(応募数508点)し、入園者確保、施設の魅力向上に取り組んだ。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全にしながら、来場者の満足度が上がるように植栽にも新たな取り組みを試みていく。

また、R3年度実施のアンケート結果では、40代以上の入場者数が約7割、30代以下が約3割であった。30代以下はインスタグラム等の SNS で花さじきの情報収集をしている割合が高かったため、引き続きこれらを有効活用して幅広い世代へ認知度向上に努める。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	S			

総合評価指標 (管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3～5年度(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	屋内清掃、屋外清掃、トイレ清掃、ごみ処理の実施(1回/日)	職員による清掃等を毎日実施し、来園者が常に快適に利用できる状態を維持した。	◎	◎
	設備保守管理	施設・設備の日常及び定期的な点検、異常発生時の速やかな対応	職員による日常的・定期的な点検を行い、適切な保守管理に努めた。	○	○
	植栽管理	年間植栽管理計画の作成、花き・樹木・芝生等の展示・管理	年間植栽管理計画に基づき、植え替えや害虫駆除、剪定等による適切な管理を実施し、魅力ある景観の提供に努めた。	○	○
	警備	巡回(1回/日)、動物舎の出入管理、交通整理等の実施、緊急連絡体制の整備	職員による毎日の巡回や夜間警備の業者委託、確実な施錠の励行等を行い、安全の確保に努めた。動物舎については、ビジターハウスにて見学利用者が氏名等を記帳することで出入管理を行った。駐車場の交通状況は職員が毎日監視し、GW等来園者が多い場合には交通整理のために警備員を配置した。	◎	◎
	小規模修繕	経年劣化・老朽化等による施設・機械・設備等の小規模な修繕の速やかな実施	軽微な補修は職員で行い、業者による対応が必要なものは速やかに発注のうえ修繕した。	○	○
	法定点検の実施	関係法令等に基づく電気設備等の法定点検の実施	業者委託により電気・消防設備の点検を年1回、電気工作物・浄化槽の点検を毎月実施した。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	木曜休園(祝日の場合は翌日) 開園時間 9 時～17 時	職員の勤務体制を適宜調整し、計画のとおり開園した。 (開園日数:316 日) ただし、緊急事態宣言により、4 月 25 日～5 月 11 日(17 日間)は但馬牛博物館と農産加工室を利用停止し、インフォメーション窓口と屋外のみ部分的営業を行った。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	公平かつ平等な運営の実施、全ての方が利用しやすい施設となるよう施設整備及び必要とされる配慮等を提供	特定の団体等に有利が生じないよう公平な運営を行い、車いす等の備品の貸し出しや多言語対応機器の利用等、来園者に応じて可能なかぎりの対応や工夫を行った。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	①但馬牛の展示、管理 ・放牧を活用した飼育展示 ・繁殖雌牛の飼育:13 頭 ・子牛出荷予定頭数:8 頭 ②小動物の展示、管理 ・ふれあい広場での展示 ③花き、樹木等の展示、管理 ・園内での花の展示 ④但馬牛博物館の運営 ・展示(企画展:2 回、出張展示等) ・資料管理 ⑤イベントの企画、運営 ・但馬牛への理解が深まるイベントの実施:49 企画	①地域の飼育方法に倣って、放牧を行い周辺環境に調和した飼育展示を実施した。また、繁殖雌牛を 13 頭飼育し、子牛を 11 頭出荷した。 ②ふれあいを重視した飼養環境を維持するよう努めた。 飼育頭数:ヒツジ等 84 頭 ③花園やビジターハウス周囲の花壇で花の展示を行った(通年展示、植替 2 回)。 ④企画展を 2 回(6～9 月、10～3 月)、小学校を対象とした但馬牛に関するオンライン授業を 2 回(10/5、2/1)実施した。 ⑤夏休み但馬牛講座、但馬牛クイズ大会、羊の毛刈り体験・雪上運動会等、42 企画のイベントを実施(48 回、延べ参加者 1,774 名)。 なお、緊急事態宣言中のイベント 7 企画については開催中止。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートを実施し来園者からの意見聴取や満足度等の把握・管理を行う。	イベント開催時に 1 回実施。 施設全体の満足度について、良好である回答(大変満足、やや満足)の割合が 75% だった。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	目標年間来園者数: 200,000人 [前年度実績: 97,060人]	年間来園者数実績: 150,540人 新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響が低減された時期もあり、前年度比155.1%(53,480人の増)となったが、目標は達成できなかった。	△	△
	施設稼働率	県や町等との連携や各種媒体の活用により効率的に広報を行い、利用促進を図る。 【計画】 農産加工体験 目標受入回数: 300回 目標イベント使用回数: 15回 [前年度実績] 農産加工体験 受入回数: 140回 イベント使用回数 10回 稼働日数: 88日 稼働率: 30.7%	農産加工体験では、複数人での飲食をともなうことから、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響が大きく、目標は達成できなかった。 【実績】 農産加工体験 受入回数: 151回 イベント使用回数: 11回 稼働日数: 109日 稼働率: 34.5%	△	△
収支状況	収支計画と実績	【計画】 収入計: 98,929千円 ・指定管理料: 87,270千円 ・利用料金収入: 467千円 ・その他: 11,192千円 支出計: 98,929千円	【実績】 収入計: 106,025千円 ・指定管理料: 96,913千円 ・利用料金収入: 100千円 ・その他: 9,012千円 支出計: 106,025千円	○	○
	経費節減に向けた取組	管理運営費の低減を図るため、管理手法の工夫等に取り組む。積極的に資源の再利用を行う。	軽微な補修・修繕は職員で行い、資材の再利用や節約についても積極的に取り組んだ。 光熱水費の経費節約に取り組む、紙の広報媒体を減らしSNSにより効率的な周知・広報を行うことで用紙使用量を削減した。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望及び苦情に対して誠意を持って対応し、重要な内容については県へ速やかに報告する。	接遇の向上にかかる情報提供等による職員への教育を実施した。ご意見ご要望箱を設置し、いただいた意見に対し適切に対応した。 【意見】目や鼻に症状があるウサギが展示されていてかわいそう。 【対応】当該ウサギを含め、異常を示す展示動物は、原則、バックヤードで安静が保てるようにした。	○	○
	危機管理体制の確保	災害や急病、怪我、犯罪等が発生した場合、安全確保のうえ救護対応を行い、関係機関への連絡を行う。簡易な薬品や資材等を常備し、対応マニュアルを職員へ周知する。	緊急連絡網を作成し職員へ周知した。軽度の傷病者に常備していた救急用品・医薬品を提供した。	○	○
	県・関係機関との連携	県等と密に連絡をとりながら協定書・仕様書に基づいた適正な管理運営を行う。 随時、管理運営状況等を県へ報告し、調査・照会や事業実施等について要請があった場合は協力を行う。 また、各種団体、地域住民、公共機関等と連絡調整を行い、利用促進活動に努め、地域振興に資する活動等についても積極的に取り組む。	県や町、地域、その他関係機関等と緊密に連携をとり管理・運営を行った。 「人と自然の博物館」との共同企画実施:3回 研修、社会学習等の受入及び派遣:19回 トライやるウィーク受入:2回 近隣のこども園や学校、PTA等の利用も多く、交流施設として地域に必要とされている。 適正な管理運営に向けて、下記について県の指導を受け改善を行った。 ・指定管理料に加え、利用料金及びその他の収入を加筆し、総収入と総支出を記載した実施計画及び実績報告書の作成 ・経理事務や備品管理体制の見直し	△	△
	業務の再委託の状況	施設・設備の保守管理、資源廃棄物の処理、夜間警備、来園者の交通整理	左記及び除雪業務、ウェブサイト保守、ウェブサイト改修、倒木処理、イベント運営業務、園内管理作業補助、加工体験業務補助、但馬牛博物館殺虫業務、空調機清掃	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

○自己評価

イベント開催の自粛等、R3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で来園者数の目標達成とはならなかったが、芝生広場に設置した大型遊具を供用開始したことで、放牧場での動物の見学とあわせ、コロナ禍における『ファミリー層向けの屋外レジャー施設』というニーズとマッチし、来園者数は増加傾向にある。但馬牛博物館では「兵庫美方地域の但馬牛システム」の日本農業遺産認定（平成31年2月）を受け、令和3年6月に農業遺産体験館をオープンし、また、令和4年3月には博物館法に基づく相当施設に指定される等、機能の強化を図りながら“但馬牛”や“但馬牛と人”が育んだ文化・歴史について情報発信に取り組んでいる。

○来年度の取組目標

更なる来園者数の増加にむけて、適切な感染防止対策を実施しつつ、施設機能や地域特性を最大限に稼働できるよう魅力的なイベント・体験事業を企画し、複合的な誘客要因を作り出すことに取り組む。

○県からの指導内容

包括外部監査で指摘された実績報告書の作成方法や備品管理、イベント参加費の管理について、所管課の指導によって適正に実施するよう見直しを行った。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部畜産課

施設名	県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○豊かな自然の中に位置する施設特性を活かし、ファミリー層のニーズに答えたイベントや憩いの広場を提供する取組みが行われている。

○博物館内に「農業遺産体験館」を増築し、新しい情報発信の拠点として施設機能を活かした取組みが行われている。

○利用者アンケート結果で、施設全体の満足度について7割以上の利用者から満足評価を得ており、おおむね良好な運営を行なうことができていると評価できる。

○入園者数は減少したものの、新規イベント企画等の実施による集客を見込んだ運営を行っていたことは評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○包括外部監査で指摘された、実績報告書の作成方法、備品管理、農産加工体験のイベント参加費の管理について、改善を指導。具体的な改善方法について提出を求め、適正な管理運営がなされるよう監督を強化した。

○経費削減に努め、効率的な運営を行うとともに、「動物とふれあうことのできる憩いの広場を提供」及び「但馬牛振興」の拠点施設として、施設運営、事業展開等の向上に向けた指導を行っていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立国見の森公園	現指定管理期間	令和3年～令和5年(3年間)
指定管理者	(公財)しそ森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	◎	◎
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	◎	◎
	植栽管理	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	◎	◎
	警備	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	◎	◎
	小規模修繕	<ul style="list-style-type: none"> 建物関係計画修繕を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 山麓交流館屋根(雨漏り対策) 山上駅地盤とデッキ補修 山麓駅舎周りのテーダ松伐採 	◎	◎
	法定点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> 防災設備(煙・熱感知器)法定点検 	令和4年2月10日 二和防災設備㈱により実施済み。(問題なし)	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	<p>通年会館とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	<p>通年会館とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> プログラム参加者募集等の情報については HP に掲載、リーフレットを関係公共施設へ配付する 森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付け 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム参加者募集等の情報については HP に掲載、リーフレットを関係公共施設へ配付している。 森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付けている。ただし定員を変更した場合、土日祝の電話予約は停止、窓口のみとしている。 	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。</p> <p>企画プログラム数:42回(634人)</p> <p>団体利用:368回(3,184人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実施プログラム数 53回(867人) (コロナ感染症の関係で飲食中止継続) 団体利用数 488回(4,798人) 	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運 営 業 務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	・一般来園者に対し、交流館および学習館にそれぞれアンケート用紙を設置し、意見・要望を収集	・一般来園者アンケート 投函数 113 件(前年6件から激増) 総合評価 大変満足 53% やや満足 26% 普通 18%	◎	◎
利 用 状 況	利用者数	前年度実績(23, 591人)並みを目標とする。	年間来利用者数 30, 902人	◎	◎
	施設稼働率	開園日 273日 森林学習軌道運行日169日 前年度稼働率:62% ※コロナ禍であることを考慮し、前年度実績を目標とする。	開園日 291日 森林学習軌道運行日 219日 森林学習軌道運行便数 2301便 【稼働率:75%】 まん延防止等重点措置の実施の際にはモノレールのみ運行を停止していた期間があったが、前年度の稼働率については超えることができた。	◎	◎
収 支 状 況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 45, 296, 240円 支出 45, 296, 240円	決算額(指定管理料) 収入 45, 296, 240円 支出 45, 296, 240円 (支出:うち修繕・整備等) 危険木伐採 2, 398, 000円 LED 化工事 988, 240円 計画修繕 12, 430, 000円 収入総合計 45, 296, 240円 支出総合計 45, 296, 240円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	・プログラム単位で収支を”0”にする ・木工体験材料の自達(廃材利用)	・プログラム講師料は収入(該当プログラム参加費等)に応じ、講師と調整を行ない、プログラム単位での収支がマイナスにならないようにした。 ・木工材料の地元業者からの廃材を引き取り、購入を抑えた	◎	◎
運 営 体 制	苦情要望等の対応体制・内容	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	来園者から散策路の進行方向がわかりにくいという声があったので、2箇所看板を追加する等、要望に迅速に対応した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	国見の森公園安全管理マニュアルを遵守し、森林学習軌道運行管理マニュアルを新規作成し対応している。	◎	◎
	県・関係機関との連携	・運営状況については常に県、指定管理者と協議、助言をうける ・既存の緊急時の連絡体制継続	・6公園連絡協議会、視察等を必要に応じおこない情報を共有した。 ・事故、救急、消防、防犯等、緊急連絡を必要とする事象発生はなかった。	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・来園者が前年比31%増加した。これは10月以降にコロナ禍前の水準に戻ったことと、団体利用、特に初来園の学校関係が増えたことによる。
- ・今後、引き続き来園者増を図るために、学校団体利用を継続維持していくことが必要と考える。地道な PR 活動、特に学校ネットワークを活用した口コミ等での評判をいただけるように日々精進したい。
- ・PR 活動に加え、魅力ある体験プログラムを考案し、利用者満足度を上げる活動をしていきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	国見の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)しそ森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○地元の学校関係の受け入れや地域団体のイベントにも積極的に参加している。
 ○宍粟市商工観光課が発行する市のパンフレットに「登山ルート」の一つとしてや、森林セラピーの場として掲載しており、より多くの人に公園を知ってもらえるようPRに努めている。
 ○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。
 ○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
 ○団体利用者の増加が著しいことについては、大変評価できる。今後も従前通りリピーターを増やす取組と新規の来園者を獲得するためのPR活動をすすめながら、公園の運営に努めて欲しい。
 ○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	園内の清潔さ、快適性を維持する。	主にトイレ、館内の清掃、除草等を週2回委託。 芝生広場清掃、管内清掃は職員が毎日実施。	◎	◎
	設備保守管理	来園者の安全を確保するために、日常の施設点検を行う。	活動拠点周辺は毎日の点検を実施。 散策道は月1回の点検を実施し、倒木処理、落石等その都度実施。	◎	◎
	植栽管理	通法寺池周辺の景観整備。 広葉樹の育成。	定期的な伐採を行ない、通宝寺周辺等園内の景観保持に努めた。 人工林を伐採し、広葉樹であるモミジを2種20本植樹し育成に努めた。	◎	◎
	警備	警備会社(セコム)に委託し、夜間・休日の警備体制を確保する。 駐車場はバリカーでの施錠を行なう。	夜間・休日は警備会社に委託した。事故等の問題はなかった。 夜間、休園日等にセンサーが働いたときは、警備会社が確認に来るような仕組みになっており、問題があれば事務局長へ連絡が入る体制を整えた。 駐車場はバリカーでの施錠を行なった。	◎	◎
	小規模修繕	来園者の安全、安心を主眼に修繕。	散策道への落石、倒木処理や保護柵の補修などその都度職員が実施。	◎	◎
	法定点検の実施	防火用設備等点検を毎年実施。	3月に消火器具の点検を受け報告書の中播消防署に提出。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 5月～8月:9時～18時、9月～翌年4月:9時～17時	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 5月～8月:9時～18時、9月～翌年4月:9時～17時	◎	◎
	公共性・公平性の確保	来園者全ての来園者の要望は出来る限りの対応をする。 特に小学校等の環境体験学習への受け入れは断らないことを前提に対応している。	来園者の要望には可能な限り対応。 各種施設(高齢者・障害者)の来園が増加している。 小学校・幼稚園の体験学習は断らないことを前提に受け入れ、それぞれの要望に対応した。 プログラムチラシを広く配布し、ブログを含めホームページに情報を掲載した。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運營業務	各種事業・プログラムの実施状況	前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。 企画プログラム数:37回(800人) 団体利用:28回(784人) 里山づくり活動:208回(985人) 多彩なニーズに対応する事業展開。 プログラム案内のデザイン依頼(無料)による工法の充実。	企画プログラム実施数:69回(1,357人) 団体利用:27回(1,175人) 里山づくり活動:194回(1,000人) 一時期まん延防止等重点措置の実施により団体利用と、里山づくり活動の回数が伸び悩んだが、プログラムについてはコロナ禍でもできる内容を活動スタッフと工夫して行なったことにより、前年度の実績を超えることができた。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	アンケートにより来園者の意識調査。	アンケート数 105 新規のお客様は39%、4回以上が36%を占めている。再来園の『ぜひ来たい』が73%と好感度はかなり高い。	◎	◎
利用状況	利用者数	前年度実績(17,488人)並みを目標とする。	22,259人	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし		
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 45,233,000円 支出 45,233,000円	決算額(指定管理料) 収入 45,233,000円 支出 45,233,000円 (支出:うち修繕・整備等) 危険木伐採 778,800円 計画修繕 18,299,200円 収入総合計 45,233,000円 支出総合計 45,233,000円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	維持管理を適切に行い、経費削減に努める。	軽いメンテナンスを日常的に行い、大規模な修繕にならないように努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	事務局長が即時対応、不在時は他の職員が即時対応し、事務局長へ報告する。	苦情:なし 要望:自販機設置(置かない方針)	◎	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡体制の確立。 各種訓練の実施。	職員の連絡体制:有 事務所内に緊急連絡先を掲示。 年1回、消防署と連携し散策道の危険個所の点検と緊急時の対応の確認を実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県(担当課)との連携に努める。 学校、自治会等地域の団体と交流を図り、公園の運営について、地元住民に理解してもらえるよう努める。	公園の課題や一般からの要望等については、県(担当課)と情報共有及び意見交換を行い、管理運営の改善に努めた。 活動スタッフ用機関紙「こもれび通信」を地元自治会長にも送付し、地元住民に対し、公園の活動を理解してもらえるよう努めた。 地元中学校のトライやるウィーク受け入れや、年2回のお祭りに地元自治会等に参加を依頼し、地元との交流に積極的に取り組んだ。	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

開園以来守り続けてきた里山を引き続き整備していきたいが、現状の手法であれば、予算、人員の問題で手が廻らないため、今後も工夫と対策が必要である。

限られたコストの中で、来園者の利用する散策道沿いは重点的に整備するよう努めている。

今後も安心、安全な里山を目指し取り組んで行く。

鹿の異常繁殖によるヤマビルの増加に頭を痛めているため、今後も対策を考えていきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○小学校の団体受け入れ、中学校のトライやるウィーク、高校のインターンシップ受け入れなど地域との交流、次世代の育成にも熱心である。

○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。

○コロナ禍に対応し、感染防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。

○獣害被害等、公園だけの対策が難しい課題については、県（自然・鳥獣共生課）、姫路市（鳥獣対策室）等の専門機関の指導を仰ぐ、地元猟友会等関係機関と協力する等、対応を工夫して課題解決に努めて欲しい。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	トイレ・ホールの日常的点検を行う。 倉庫等の整理整頓を行う。	トイレ・ホールの清掃点検(毎日・火曜日は水洗い) 里山倉庫、木工倉庫の整理整頓(月1回) 建物の周辺清掃(週1回)	◎	◎
	設備保守管理	日常点検を行う。 職員による設備点検を行う(年1回)。 不具合の発見と早期の対策。	日常点検を行う。 職員による設備点検の実施。	◎	◎
	植栽管理	定期的な草刈り(全般)。 シカによる被害の対策。 樹木の剪定。	広場の芝生草刈り(伸びてきたら) シカ対策の電柵、ネットの設置(前回未設置分) ネムノキ等の剪定。 茶畑・果樹園の整備。	◎	◎
	警備	施設、駐車場バリアカー施錠の順守。 夜間警備は ALSOC に委託している。	施設の施錠は担当者が施錠し、チェックシートに記入、サインをしている。夜間警備は ALSOC に委託して管理している。	◎	◎
	小規模修繕	園内の施設の点検及び小規模修繕の実施。	散策道入り口の木橋補修、ピオトープ池の床板修繕、ナラ枯れの伐採。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽の保守管理を行う。	浄化槽保守点検の実施(年8回2か所)	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	◎	◎
	公共性・公平性の確保	プログラム受付の公平な対応。 バリアフリー設備管理。	プログラム受付(電話・FAX・メール)で統一した日時を定め公平に受け付けた。 バリアフリーのスロープ道の舗装修繕をし、障がい者と健常者の利用の公平性を保つようにした。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。 企画プログラム数:18回(186人) 団体利用:121回(2,837人) 里山づくり活動:124回(258人)	企画プログラム数:35回(529人) 団体利用:94回(2,592人) 里山づくり活動:98回(253人)	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者アンケートボックスをホールに設置し、集計・調査を行う。 散策道の東屋(黒木山と展望台)に感想ノートを設置。	アンケート総数 16 通 概ね満足された方が多かったが、「開館時間を長くしてほしい」「炊事棟を使いたい」との要望もあった。総数が前年度よりも少なかった。 感想ノート総数 291 件(黒木山 164 件、展望台 127 件) おおむね満足された方が多かった。総数が前年度よりも少なかった。	○	○
	利用者数	前年度実績(12,557 人)並みを目標とする。	15,497 人 運営体制の立て直しとして、プログラム数や森づくり活動を充実させた事が利用人数増加につながった。	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし		
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 35,561,300円 支出 35,561,300円	決算額(指定管理料) 収入 35,561,300円 支出 35,561,300円 (支出:うち修繕・整備等) 危険木伐採 396,000円 計画修繕 6,953,300円 収入総合計 35,561,300円 支出総合計 35,561,300円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	消耗品に対する取り扱いを大切にするとともに、節約を推進する。 電力会社の見直し(2020 年頃より料金が契約当初より上がり削減を図った)。	節約に取り組めた。 電力会社の変更をしたが、期待したような結果は得られなかったため元の電力会社と再契約した(令和 4 年)	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情・要望内容の把握に努める。 生の声の収集(感想ノート設置)	申し込み優先のプログラムがあり、優先参加者(1 回以上該当のプログラムに参加したことがある方)と初回参加者の対応の仕方が十分でなく参加者に迷惑をかけたため、当プログラムのルールを設定し、参加者と職員双方にルールの共通認識を図った。	◎	◎
	危機管理体制の確保	公園職員の緊急連絡リストの作成。 講習会の開催等、園内危険箇所の認識及び対応。	コロナ禍のため講習会は開催できなかったが、来園者のけが防止のため、園内の危険箇所の確認を定期的に行ない、散策道の立ち枯れ、倒木処理の実施に努めた。また、職員の入れ替わりがあったため、緊急連絡リストの作成を行なった。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県、地元、関係機関との連携を図る。 特に、町行政との関係性を強めた。	連絡を密に取り合い、緊急時にもスムーズに対応できるよう運用している。	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・コロナの影響もあり、例年と比べると利用者は減少しているが、令和 3 年度については昨年度の実績を超えており、コロナ禍前までの日常が戻りつつあるといえる。
- ・ボランティアや職員の高齢化が顕著であり対策が必要である。
- ・アフターコロナに向けた取り組みとして、SDGs の 17 項目に該当する業務課題については、重点に対応し、持続可能な公園運営を目指す。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○ボランティア等による活動や地域の小学校と連携した次世代育成の取り組みが行われている。
 ○公園を多可町観光交流協会の実施する「レンタサイクル事業」の拠点施設として活用し、公園の利用者増に努めている。
 ○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。
 ○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
 ○アンケート総数を増やすため、アンケートボックスを設置するだけでなく、プログラム参加者に回答をお願いするよう声かけ等も工夫して行って欲しい。
 ○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取組を継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	ささやまの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	園地管理職員による事務室棟・納屋棟・トイレ棟・道場棟等の清掃 玄関・廊下の清掃 毎週 火・金曜日 98回	園地管理職員による事務室棟・納屋棟・トイレ棟・道場棟等の清掃 玄関・廊下の清掃 毎週 火・金曜日 98回 事務職員によるトイレ棟の清掃 3回	◎	◎
	設備保守管理	浄化槽点検 2ヶ月ごと 6回	浄化槽点検 2ヶ月ごと 6回	◎	◎
	植栽管理	生け垣・植木の剪定、下草刈り 梅雨の前後に実施。	生け垣・植木の剪定、下草刈り 6月末から7月にかけて実施 公園内外の植栽を美しく剪定できた。下草刈りも暑い中丁寧に行われ、来園者の評判もよいが、面積や本数が多いので次年度も引き続き計画的に実施する。	○	◎
	警備	夜間警備 センサーによる警備。	夜間警備はセンサーをトイレにも設置することで、安全度が一層高まった。	◎	◎
	小規模修繕	外壁塗装工事に含まれない器具などの修繕。	外壁塗装工事に含まれない掲示板、照明器具などの修繕と塗装を行い、塗装による美観にふさわしいものとなった。	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備点検 年度に1回。	消防設備点検 12月実施 異常なし	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年9時～17時15分	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年9時～17時15分	◎	◎
	公共性・公平性の確保	来園者すべてが感動し満足していただけるよう努める。	来園者すべてにご満足いただけるよう施設の点検や案内に努めた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。 企画プログラム数:42回(531人) 団体利用:42回(630人) 里山づくり活動:61回(167人)	企画プログラム数:84回(1,071人) 団体利用:55回(1,127人) 里山づくり活動:103回(359人)	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	新しいプログラムを開発しながら、参加者に満足してもらえるよう工夫する。	コロナ禍により里山まつりの中止など、計画していたプログラムのすべてを実施することができなかったが、コロナ禍でも来園者が楽しめるようにプログラムの内容やイベントの規模を工夫して行なったところ、プログラム参加者からはよい評価を得ることができた。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用 状況	利用者数	前年度実績(16,603人)並みを目標とする。	25,128人 コロナ禍にありながらも、アウトドア思考の来園が増え、満足いただいた方を中心に再来園されている。	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし		
収支 状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料・補助金) 収入 33,263,000円 支出 33,263,000円	決算額(指定管理料・補助金) 収入 33,263,000円 支出 33,263,000円 (支出:うち修繕・整備等) 危険木伐採 231,000円 換気設備整備 10,050,000円 計画修繕 7,524,000円 収入総合計 33,263,000円 支出総合計 33,263,000円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	消耗品等の無駄を省く。	凍結による水道管の破裂による漏水で無駄が発生した。 破裂については、速やかに修理を行った。	○	○
運営 体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情には真摯に対応し、苦情について職員全員で共有し対応・対策を考える。	木製遊具で負傷したことよりも、当初苦情を聞いたスタッフの姿勢に不満をもちたれたが、その後公園責任者が相手方と話をした上でお詫びをし、理解を得ることができた。	△	○
	危機管理体制の確保	散策路・登山道の点検。 木製遊具の点検。 必要に応じて警察等関係機関への報告相談及び情報提供を行う。	散策路・登山道の点検を定期的に行った。 木製遊具を使用中の来園者が負傷した。そのため木製遊具については全面撤去し、今後も設置しない方針に決定した。 案件毎に、関係する機関への報告相談及び情報提供を行った。	○	○
	県・関係機関との連携	県庁豊かな森づくり課、丹波の森協会との連携を密にする。	必要に応じて関係機関との連携を行った。	○	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

すばらしい景観をもつ里山公園として徐々にではあるが、存在感を増しつつある。来園された方々からよく、「美しい」、「素晴らしい」とお褒めの言葉をいただく。今後とも、来園された方々が感動する里山公園として、開園当初の美しさが蘇った今、創意工夫を凝らすことでなおいっそうの評判を呼ぶ公園へと高めていきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	ささやまの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○ボランティアの活動スタッフが班毎に会議を開催し、利用者の意見を反映し、豊かな里山づくりの推進と自然や里山文化に触れる機会となるプログラムを企画している。

○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。

○来園者数が2万5千人という数字は、年間目標を達成しているだけでなく、コロナ禍前(R1:1万7千人)を大幅に超えている。これについてはコロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行ったこと、さらに新規の来園者を増加させた結果によるものであり大変評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。

○苦情、要望については、当日配置されたスタッフによる対応で終わるのではなく、全スタッフで共有し、公園運営の改善に活かしてほしい。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	やしらの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	やしらの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常的に細部に至るまで清掃を行い、常に清潔に保つことで規範を作り、ゴミの発生源を排除することでゴミゼロを目指し快適な環境を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 母屋、施設の便所等の清掃及び園内のゴミ拾い巡回と併せて隣接する県道に不法投棄の防止看板を設置、ゴミ拾い、見回りを毎日実施徹底することでゴミを捨てない環境づくりを推進。 ゴミを捨てない規範が出来ており、散策路にほとんどゴミが無く来園者に気持ちよく施設を利用いただいている。刈草や生ごみの堆肥化、間伐材の資源化などにも取り組んでいる。 	◎	◎
	設備保守管理	<p>施設設備(電気・空調等)及び園内木製品(木道等)について保守点検を行い、必要に応じて保守整備を行う。</p> <p>整備にあたり伐採木の利用等園内の資源を有効活用する。</p> <p>自主点検チェックリストをもとに年一回以上実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の保守点検を実施。木道等の構造物の改修計画を作成し優先度が高い箇所から順次補修工事を行った。ボランティアスタッフによる見回りや自主点検チェックリストをもとに点検を実施した。安全性を重視し計画的に補修を実施。 ボランティアスタッフの活動の一環として管理費以上の施設整備を実施した。あらゆる手法を探り極力低コストでの維持管理に務めた。ナラ枯れによる危険木等の処理も迅速に行い、安全確保を図った。 	◎	◎
	植栽管理	園内の除草・草刈り及び草木等の育成・管理について計画的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識及び技術が必要な森林整備については、専門業者に委託し安全かつ効率的に実施。生物多様性に配慮すると共に、大型の台風や暴風雨が頻発する昨今の気象条件やナラ枯れ被害を考慮した今必要な森づくりを推進するとともに適期を逃さない除草を日常管理で行うなど安全快適な管理を行った。 通常の管理に加え、生物多様性に配慮した公園づくりを推進。企業と協働で森づくりを行うなど先進的な取り組みとして評価を得ている。植栽木についてもボランティアスタッフが剪定を行うなど県民参加の公園づくりを実現している。ナラ枯れの調査を実施し、被害状 	◎	◎

			況のマッピング、危険な立ち枯れの処理を実施した。		
	警備	園内の財産を保全するために必要な環境を整備する。夜間の警備は機械警備による委託業務とする。	車上荒らし対策・不法投棄防止として看板を設置し、職員による巡回強化や声掛けを実施。夜間の施設警備は、警備保障会社に委託することにより管理している。地域の交番等と連携し見回りを依頼するなど犯罪防止に務めた。	◎	◎
	小規模修繕	危険防止及び安全確保等のため、必要に応じて施設の修繕等を実施する。修繕にあたり園内の資源を有効活用する。	・専門性、緊急性が伴う修繕に関しては業者へ委託対応(トイレ排水詰りの復旧を業者に依頼1回)。 ・老朽化した散策路の階段補修等優先順位の高い箇所から修繕を行った。企業やボランティアの力で施設の維持管理も行い、低コストで来園者が安心快適に利用できる環境を整備できた。	◎	◎
	法定点検の実施	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	【休園日】 毎週月曜日(月曜日が祝日にあたるときは翌日)、 年末年始(12月29日～1月3日) 【開園時間】 9:00～17:00	計画通り開園することが出来た。 閉園 30分前と10分前に閉園案内の放送を実施。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	地域の資源として豊かな自然環境を保全する。 HP等各種メディアを活用し広域的に活動の周知に努める。 利用者のニーズを把握し、だれでも足を運び楽しめる公園、参加しやすいプログラムを企画する。魅力ある事業を行う。	・月2回「森もりの日」を設定し、誰でも参加できる県民参加の森づくりを推進し、県民がボランティアとして事業に参画しやすい環境整備に務めた。 ・フェイスブック・インスタグラム等 SNSで広く広報を行い、公園の魅力や活動の様子を発信した。多様な内容のプログラムを企画実施し、ニーズにきめ細かく対応した。園内に情報交換用の掲示板を設け活動の活性化とコミュニケーションの深化を図った。高齢化社会と身障者や車イスでの利用を視野に入れたユニバーサルデザインを意識した公園づくりを推進した。 自然環境保全の広域的な活動拠点として役割を果たしている スタッフが主体となって幅広いニーズを受け入れる公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組むことが出来た。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運 営 業 務	各種事業・プログラムの 実施状況	<p>前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。</p> <p>企画プログラム数:63回(1,105人) 団体利用:200回(2,324人) 里山づくり活動:107回(454人) 県民の多様なニーズに対応。 平日の利用促進。 企業との協働事業の推進。 月2回の「冒険ひろば」を開催する。</p>	<p>企画プログラム数:154回(2,041人) 団体利用:176回(2,307人) 里山づくり活動:102回(484人) まん延防止等重点措置の実施等により、団体利用が減少したが、ボランティアスタッフが主体となり、大人向けプレミアムプログラムの実施や平日プログラムの充実により新たな利用者を拡大することができた。 ・環境学習、団体利用の受け入れとサポートにボランティアスタッフが主体的に関わり実施した。「子どもの冒険ひろば開設費等補助事業」の補助を受けて月2回の冒険ひろばを開設し、子どもたちが自然の中で安心して遊べる環境を整備した。</p>	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	<p>プログラムのおわりにアンケートなどを持ちいて参加者自身がふりかえりを行えるよう促し、参加者の変化を検証し満足度を高める機会を設ける。</p>	<p>ふりかえり結果を分析し、次期プログラムに反映させることにより、プログラム内容の充実、丁寧な対応、適正な参加料設定などに活かし、多くのリピーターを得て、高く評価されている。</p>	◎	◎
利 用 状 況	利用者数	前年度実績(23,351人)並みを目標とする。	27,566人	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし		
収 支 状 況	収支計画と実績	<p>予算額(指定管理料)</p> <p>収入 55,218,222円 支出 55,218,222円</p>	<p>決算額(指定管理料)</p> <p>収入 55,218,000円 支出 55,218,000円 (支出:うち修繕・整備等) 危険朴伐採 1,991,000円 換気設備整備 1,140,700円 計画修繕 25,899,522円 収入総合計 55,218,000円 支出総合計 55,218,000円</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	経費節減に向けた取組	<p>業務を PDCA サイクルに則り、常に見直すことで経費節減を心がけ効率的に職務に取り組む。</p> <p>環境保全事業、子どもの居場所等に係わる助成事業の情報収集を行い積極的に活用する。</p> <p>自主事業を拡充し、協力を得ることで運営サービスを充実させる。</p>	<p>・日常業務の優先度を精査し、効率的に運営することでコストの削減に取り組んだ。事業ごとにふりかえりを行い、次の事業をより効果的に実施できるよう努めた。プログラムの運営・施設運営がスムーズに行える適切な支出を行った。運営のコスト意識を職員に徹底した。</p> <p>・助成金事業を有効活用し、プログラムや事業を充実させると共に、それぞれの事業の PR に努めた。</p> <p>○阪急阪神ゆめ・まち”ええこと”応援団</p> <p>○子どもの冒険ひろば開設費等助成事業</p> <p>○GreenGift 地球元気プログラム</p> <p>○緑と水の森林ファンド</p> <p>・園内の自然資源および農作物等を有効利用し付加価値を加えることで公園の魅力を発信すると共に運営協力金として相応の対価を得た。</p>	◎	◎
	苦情要望等の対応体制・内容	<p>苦情要望に対しては公平かつ真摯に対応し、公園のイメージアップに努める。</p>	<p>・散策路の通行止め等の情報を HP でお知らせして欲しいとの要望があり、通行止・解除の情報を掲載した。</p> <p>・季節の花の開花情報の問い合わせが多く、HP やブログにて情報発信した。</p> <p>・散策路の階段の土が減って段差が大きくなり歩きにくいとの要望があり、ボランティアスタッフで補修作業をした。</p>	◎	◎
運営体制	危機管理体制の確保	<p>危機管理体制を整備する。</p> <p>個人情報の保護に努める。</p> <p>安全講習会 年 1 回以上実施。</p> <p>食品衛生管理者を設置。</p> <p>緊急連絡先の掲示。</p>	<p>・緊急連絡網、防火管理組織等の整備を行った。個人情報の管理体制を徹底。園内各所に緊急連絡用の看板を設置。ため池に救助用浮き輪を設置。ボランティアスタッフ自身による防火安全講習や子どもたちに大切に正しく道具を扱えるよう指導、安全意識の醸成と安全第一の運営を行った。ボランティアスタッフが主体的に安全に対する呼びかけを行い、安全意識の向上につながった。組織として安全衛生担当理事を中心に危機管理体制の構築を図っている。</p> <p>・食の提供に際して、食品衛生管理者を配置し食中毒予防に関しても最大限に留意した。</p> <p>時勢に必要な危機管理として感染症留意した運営を実施した。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	県・関係機関との連携	県、地域、関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉野台生涯教育センター、教育研修所、県民局、地元 NPO、教育機関、かとう環境パートナーシップなど連携を図った。とんどまつりの実施や地元へもち米の寄贈など地域間及び世代間の更なる交流の推進が図れた。 ・高校生や大学生主体のプログラム運営の機会の提供とサポートができた。ひょうご SDGsネットワークと連携し、SDGsを意識した取り組み実施に向けて、県民や企業と協働で情報収集、プログラム立案ができた。 ・地元自治体との環境パートナーシップ協定に基づいた事業に協力し、地域に貢献している。 ・関係機関と平素よりコミュニケーションを密に、良好な関係づくりを心がけて協働による相乗効果を生み出す取り組みを行った。 	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

感染症流行拡大の影響により中止、縮小する事業も多く、不自由な状況が続いたが、出来ることを出来る範囲で実行し、状況に適宜対応した運営を行い、新たな公園の価値を創造するための取り組みを行った。県民が主体的に参画し、県民のための公園として存在価値を生み出している。

コロナ禍でイベントの中止や縮小があり、離れてしまった利用者呼び戻すため、中止した事業の再開に取り組みたい。また、コロナ禍で培ったノウハウ、新たに生まれたニーズを生かして、さらなる事業の発展を目指したい。

今後も多くの人に愛される持続可能な運営を目標とし、尽力していきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	やしらの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	やしらの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○活動スタッフ（ボランティアや企業の森参加企業）が主体的にプログラムや森林作業等の事業を企画し、実施している。月二回、「森もりの日」と称する全体作業日を設け、活動スタッフと一般参加者、企業間の交流が活発に行われている。

○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により効率的に行っている。

○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。

○多くの地域団体、企業、学校と連携しており、大変評価できる。それらのつながりを活かし、団体利用の増加に努めるよう工夫して取り組んで欲しい。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	特定非営利活動法人 宝塚NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	施設内:毎日、トイレ:週2回 駐車場:月1回(草刈り・ゴミ拾い) 窓:年1回(業者委託) 床・ウッドデッキ:年1回(業者委託)	計画通りに実施。来園者から綺麗な施設だと喜ばれている。	◎	◎
	設備保守管理	管理棟芝屋根の管理:年2回 散策路の保守点検:月2回	計画通りに実施。大雨や強風の後は、散策路の点検に入っている。	◎	◎
	植栽管理	毎月作業計画を立てて実施 草刈り・花壇整備・芝刈り 剪定・水樹・施肥等	計画通りに実施。草木を枯らす事無く、管理できている。	◎	◎
	警備	夜間警備:セコムに委託	セコムは問題なく警備できている。 公園の入り口付近で木くずや枯葉を燃やした後があり、防犯カメラを設置した。	○	○
	小規模修繕	会議室間仕切り工事など	計画通り実施。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽点検:年3回(東・西) 消防設備点検:年2回	計画通りに実施。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 4月～9月:9時～18時、10月～翌年 3月:9時～17時	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 4月～9月:9時～18時、10月～翌年 3月:9時～17時	◎	◎
	公共性・公平性の確保	誰にでも利用してもらえるように、配慮した。	ケア施設の散歩コースになっている。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	前年度実績並み(回数・人数)を目標とする。 企画プログラム数:42回(1,062人) 団体利用:44回(1,478人) 里山づくり活動:169回(708人)	企画プログラム数:56回(1,320人) 団体利用:29回(1,359人) 里山づくり活動:184回(782人) コロナ禍で団体利用は減少したものの、プログラム、里山づくり活動については、工夫して行なうことで、前年度の実績を超えることができた。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	屋内にアンケート用紙を置き記入してもらうようにしている。	プログラムの開催に制限があり、想定したよりもアンケートが回収できなかったが、利用者の要望を把握するために、プログラム参加者への声かけ、申し込み時の会話等工夫して行なった。	○	◎
状況 利用	利用者数	前年度実績(38,484人)並みを目標とする。	37,029人	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし		
収 支 状 況	収支計画と実績	予算額(指定管理料・工事委託料) 収入 43,165,000円 支出 43,165,000円	決算額(指定管理料・工事委託料) 収入 43,165,000円 支出 43,165,000円 (支出:うち整備・工事等) 危険木伐採 345,000円 散策路安全柵設置等修繕工事 3,400,000円 管理棟勾配屋根緑化修繕工事 3,392,000円 西の谷農舎茅葺き屋根修繕工事 7,105,000円 収入総合計 43,165,000円 支出総合計 43,165,000円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	適切な人員の配置、各事業は外注でなく職員が実施。	指定管理料の範囲内で活動した。	◎	◎
運 営 体 制	苦情要望等の対応体制・内容	公園長が対応。軽微な要望などは事務局次長に報告。各担当で処理する。	プログラムの申し込みは先着順であるため、メールのみで受けるよう要望があったが、高齢者からは電話、FAXでの利用も多いことから、より多くの利用者にとってよい方法を再度検討し、従来の電話、メール、FAXでの受付を引き続き行なうことにした。	○	◎
	危機管理体制の確保	連絡網を整え、緊急時のマニュアルを作成。 消防訓練・AEDの使用訓練。	コロナ禍の影響で、消防訓練・AEDの使用訓練が出来なかったが、連絡網の見直し、緊急時のマニュアルの作成を行う等、公園独自で出来ることを検討し、危機管理体制の確保に努めた。	○	◎
	県・関係機関との連携	電話・メールなどで密に連携を図る。	一般の利用者から県に対して直接問い合わせがあった場合は、県から連絡を受けてすぐ、公園スタッフから相手方に要望の詳細を確認し、対応するなど密な連携を図った。	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

大きな修繕を3カ所することが出来た。
 日々の清掃、保守管理、プログラム等は職員が計画を立てて実施。指定管理料内で適切に執行できた。
 令和4年度は、2年間できなかった大きなプログラムを久しぶりに開催することで、来園者数が伸びて知名度が上がるようにしたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	特定非営利活動法人宝塚 NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○都市近郊の立地を生かし、都市住民に対し、里山の大切さの啓発を行っている。
 ○プログラムの申し込み開始時に参加者が満員になることが多く、家族連れに魅力的なプログラムを企画しており、リピーターを定着させているといえる。
 ○地域の大学の働きかけ等、ボランティアの高齢化に対応した取り組みも進めている。
 ○森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。
 ○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
 ○リピーター、団体利用を増やすために、来園者からの要望をアンケートだけで聞き取るだけでなく、引き続き、来園者に声かけを行なうなど、生の要望を聞く等の取組に努めて欲しい。
 ○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立三木山森林公園	現指定管理期間	平成 29 年度～令和3年度(5年間)
指定管理者	公益社団法人ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	利用者の快適性をさらに高めるため管理水準を超えた清掃管理業務を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・管理水準以上の内容を実施 (森の文化館及びロータリー付近トイレ:2回/日、その他トイレ:1回/日、共用部分:日常清掃に加え定期清掃2回/年、貸館:利用後随時 など) ・職員の日常巡視巡回中にも対応 ・利用者が清潔で気持ちよく利用できるよう、常に注意を払い、貸館利用者にも利用後の清掃を促し協力を得ることで、さらに快適性が高まっている。 ・利用者を対象としたアンケートでは、96%が施設の清潔さについて「とても良い」、「良い」と回答していることから、適正な清掃が実施できていると認識している。ただし、来園者によるゴミのポイ捨てが散見されることから、ゴミの持ち帰りの周知徹底が課題である。 	◎	◎
	設備保守管理	建物・工作物・遊具などの保守点検、整備、修繕を適正に行う。 保守点検、整備、修繕履歴を記載した点検記録を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、工作物、遊具等構造物は毎日職員が巡視し、点検した(休園日は警備会社に委託) ・設備の法定、定期点検は業者に委託し行った(電気工作物:月次点検 12回 年次点検1回、防火設備:2回/年、自動ドア:2回/年、空調設備:2回/年、エレベーター:月次点検 12回 年次点検2回、木製施設:1回/年 など) ・毎日の巡視の徹底や法定点検等を計画どおり実施したことにより、故障発生時の影響を最小限に抑えることができた。 ・点検、整備、修繕履歴については、確認のため点検記録を作成した。 ・なお、施設の老朽化に伴い、不具合が増加傾向にあることから、抜本的な対策に向けて、引き続き検討対応していく。 	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	植栽管理	「生物多様性の保全」や「森の若返り」を重視した「森づくり施業計画」(平成30～令和4年度)に基づき、きめ細やかで適確な施業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な樹木医や「三木山サポーター」の協力の他、調査ボランティアグループや専門業者に委託し、新たに多様な生物が生息する環境の創生など事業計画に基づく管理を実施した。 ・事業計画に基づき雑木伐採・ススキ、チガヤ等の草原性植物の植栽、水辺の環境創生等を実施し、利用者満足度の向上、生物多様性への環境づくりに努めた。更に、ボランティアのさらなる意欲向上と積極的な連携を図ることにより魅力ある景観づくりに努めた。 	◎	◎
	警備	事故、盗難、破壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者の安全及び財産の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保や事故や不正行為防止のため、開館時間中は職員、夜間及び休日は委託業者による巡回警備を行い、常に園内の状況に注意を払うとともに、必要に応じて地元警察による巡回を要請した。 ・施錠や機械警備等の徹底を図るとともに消防訓練等を実施することにより、事故、盗難、火災等の発生予防に努めた。 	◎	◎
	小規模修繕	概ね100千円以上については、所管課と協議し、それ未満については、指定管理者が実施	<ul style="list-style-type: none"> ・100千円以上については、所管課と協議し、危険箇所について利用者に注意喚起した。 ・100千円未満については、利便性を考慮のうえ迅速な修繕を実施した。 ・施設の老朽化に伴う修繕については、利用者の安全確保に配慮し早期に可能な限り実施した。 ・異常を発見した場合は速やかに職員自らによる修繕を行い、職員が修繕できない場合には業者による点検等を実施し、利用者への影響を最小限に留めるよう努めた。 	◎	◎
	法定点検の実施	施設・設備の状況を記録 法定水準を超えた保守点検業務に配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の法定、定期点検は業者に委託実施した。 ・各種設備等の法定点検はもとより保守点検を着実に実施し、設備の安全性を確保した。 	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	水曜日(祝日に当たるときはその翌日)、年末年始 9:00～17:00	水曜日(祝日に当たるときはその翌日)、年末年始 9:00～17:00	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	公共性・公平性の確保	利用者の年齢や性別、障害の有無などに係わらず、平等利用を確保し、利用サービスの向上を図る。	<p>接遇研修を含む職員研修を実施し、また受付業務におけるマニュアルを強化し、公平で安心親切な対応を心がけるよう職員全員に周知徹底している。</p> <p>来園者を対象としたアンケートでは、スタッフの対応について、「たいへん満足」、「やや満足」と回答した利用者が99%以上と非常に高い評価を得ており、利用者に対するサービスの向上ができたと考ええる。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	森づくり、自然観察、クラフト体験などの森林環境や生物多様性に関する普及啓発企画や音楽祭、茶会など施設利用企画などを「兵庫県立三木山森林公園運営協議会」及び「イベント検討委員会」の指導助言のもと「三木山サポーター」と連携しながら実施	<p>・イベント実施:29回</p> <p>・環境体験学習等:実施20回</p> <p>・コロナ禍においても、県が実施している環境体験学習については、感染拡大防止対策を実施の上、実施要望があった場合には積極的に受け入れて全て実施した。</p> <p>・また、イベントについても、感染拡大防止対策が適切に実施できると判断した場合には積極的に実施した。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対する、施設利用に関するアンケートの実施。	<p>・R3.5～7、R2.12～R3.1に利用者413人に対するアンケートを実施し、満足度に関して5～7月では「たいへん満足63%、やや満足36%(計99%)」、12～1月では「たいへん満足53%、やや満足46%(計99%)」との回答があった。</p> <p>・利用者へのアンケートでは、非常に高い評価を得ていること、また、リピーターが約8割いることから、利用者の満足度は非常に高いと認識している。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	前年度実績(513,412人)並みを目標とする。	577,361人	◎	◎
	施設稼働率	<p>[前年度]</p> <p>音楽ホール:27.3%</p> <p>多目的ホール:14.0%</p> <p>展示室:40.8%</p> <p>研修室:16.6%</p> <p>会議室:16.6%</p> <p>クラフト館:99.9%</p>	<p>音楽ホール:40.3%</p> <p>多目的ホール:19.3%</p> <p>展示室:47.2%</p> <p>研修室:17.3%</p> <p>会議室:17.3%</p> <p>クラフト館 97.9%</p> <p>昨年度の利用率を概ね超えることができた。</p>	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	指定管理料: 108,139,790 円 利用料金収入: 5,700,000 円 その他収入: 13,000,000 円	指定管理料: 108,139,790 円 利用料金収入: 4,553,725 円 その他収入: 7,474,451 円	○	○
	経費節減に向けた取組	人件費の削減 光熱費の削減 委託料の削減	・シルバー人材センターからの人材派遣の活用 ・三木山サポーターや森林ボランティア等、協力者による業務の遂行 ・園内の照明を LED 対応に交換し、デマンド監視システムによる電気使用量を削減 ・保守管理委託にかかる契約年数を5年とし経費削減(H29 年度～) 各種事業の執行にあたり、サポーター等との連携を図るなど、人件費の削減に努めた。また、電灯の間引き消灯、室内温度 28 度設定、屋根散水装置の稼働、修理やボイラーの稼働調整などを行い、光熱費の削減に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケート・みなさまの声・メール等により要望等を把握し対応	コロナ禍の中、イベントの開催をして欲しいという声、一方で閉園を求める声など様々であったが、県の対策方針に基づき、運営を行なっていることを説明し利用者の理解に努めた。プログラム開催の際には、感染防止対策に十分配慮し工夫して行なった。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害、その他事故時の利用者の安全確保等	・消防訓練実施: 2回/年 危機管理マニュアル等に基づき、ボランティアを含めた訓練を行い、必要時に迅速な対応ができるよう取り組んだ。	◎	◎
	県・関係機関との連携	本社を通じて県と密に連絡を取りながら管理運営を実施	・修繕が必要な箇所など、本社を通じて密に県と調整 ・レストラン運営会社のシンエーフーズ(株)と密接に連携 ・緊急を要する修繕を円滑に実施した。また、レストランの集客に繋がるアイデアなど日常的に意見を交換し、双方の集客増加に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

定期的な施設点検や森林整備等適切な維持管理を行うとともに、コロナ感染症拡大防止対策を適切に行いながら集客イベント等を実施した。アンケートによると利用者満足度も高く、全体的に良好な公園管理を行えたと考える。令和4年度は、新たな指定管理期間の初年度として、新たな森づくり事業計画の策定などに取り組むとともに、引き続き、利用者の利便と安全の確保を進める。

令和3年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	三木山森林公園	現指定管理期間	平成年 29～令和3年(5年間)
指定管理者	(公社)ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○施設の管理については、毎日の巡視や法定点検の実施に加え、小規模修繕に迅速に対応し、来園者の利便性及び安全性を確保している。

○コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえた運営を工夫して行っている。

○リピーターが約8割とのことで利用者の満足度が高いことについては、一定の評価ができる。今後は全体の利用者数を増加させるべく新規来園者の獲得に向けた取組を工夫して行うことも期待したい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○当公園の管理にあたっては、その特色である広大な里山林について、種や遺伝子を含めた生物多様性保全の大切さや森林・里山管理の必要性を来園者にわかりやすく伝えることが期待される。

○現指定管理においては、当公園が県民にとって「森林とのふれあい」を深め「人と森との共生」につながる場となるよう、管理運営に努めているといえる。

○今後も引き続き、専門家の意見を聞き、適切な施業計画の立案・管理に努めるとともに、公園独自のボランティアである三木山サポーターズと連携して、各種の取組を進めるとともに、来園者の目線に立って、より県民にとって親しみやすい公園となるよう一層拡充していくことが期待したい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
				S

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である